

(1)英語科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
関心・意欲・態度	2、3年生ともに英語の授業に良く取り組むことができている。少人数授業を進めていく上で、英語科の教員が常に打ち合わせをしながら進めていることや、外国人講師による授業の工夫の成果であると考えられる。日々の授業実践で得た反省を踏まえ、学期ごとに実施する授業に関する生徒のふりかえりアンケートを検討し、今後とも授業力の向上に努めていきたい。
表現の能力	例年未解答が多い「表現の能力」を問う問題であるが、未解答率が前年度より減っており、多くの生徒に問題に取り組もうとする意欲が見られた。授業や定期考査等で表現活動を積極的に取り入れている成果と思われる。一方で、一文目は書いても、その先が続かないことがあるようなので、授業中の活動の中で様々な表現に触れる機会を設けたい。
理解の能力	英語の長文を読み取る読解問題への苦手意識が依然として強い。教科書本文のTF問題、Q&A問題の演習、副教材として50～100語程度の読み物教材を活用したReading活動をほぼ毎時間に取り入れている。
知識・理解	日々の授業において、パワーポイントやデジタル教科書を活用して新出単語や新出表現の導入を行い、生徒は興味関心を持って授業に臨んでいるように見られたが、単語の書き取りや文法事項の知識の定着の評価が低く、生徒には定着していないことがわかる。有効的な家庭学習を課したり、授業内での基本的な英文の反復練習を行う機会を設けていきたい。

(2)英語科の学習効果測定等における分析(内容別・観点別)

内容項目	分析
聞くこと	2年生は平均正答率のすべての項目において、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。3年生は対話の内容を聞き取り適切な応答を選択する問題が苦手だった。2年生は対話の内容を聞き取り適切な応答を選択する問題と英文の要点を聞き取る問題が高い数値結果だった。ALTとの授業や、日々の授業をなるべく英語で授業を進めている努力の効果だと考えられる。
読むこと	2年生は平均正答率のすべての項目において、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。3年生は過去進行形や動名詞の理解が低く、2年生は一般動詞の過去形疑問文に誤答が見られた。2年生、3年共に長文内容を理解して問題に取り組むことが苦手で、特に2年生は長文の要点の把握の問題が、3年生は長文内容を把握し内容に関する質問に英語で答える問題が目標値より下回っている。教科書の読み取りだけではなかなか英文を読む力が向上しないと考えられる。
書くこと	2年生は平均正答率のすべての項目において、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。2、3年生共に単語の並べかえによる英作文に誤答が目立った。語形や語法の知識理解が十分になされて初めて正しい語順で英作文ができるので授業中に基本的な知識の理解を丁寧に指導することが大切である。1年生の時からテーマに関して英作文をして、発表活動を積み重ねてきた2年生は3文以上の英作文の正答率がとても高く、継続的な活動の成果が上がっていると考えられる。

観点	分析
関心・意欲・態度	2年生は、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。2年生は、自己表現活動を積極的に取り入れ、他者理解を進めながら英語学習に取り組んでいることで、学びに対する意欲や関心が学習内容が難しくなってきたとしても集団で学ぶという意識が維持されているようだ。逆に3年生は、受験を意識するようになり、覚えなければならないという学習負担感が上がっている結果であると考えられる。
表現の能力	2年生は、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。3年生は、表現の能力を向上させるような手立てや改善が必要である。
理解の能力	リスニングは2年生、3年生共に良い数値であった。これは、ALTとの授業や、日々の授業で英語の歌を歌ったり、教科書のリスニング問題を欠かさず行ったりしている成果だと考える。一方で、読むことに関しては課題が残る。帯活動で取り入れているReading活動をこれからも継続し、レベルアップを図りたい。
知識・理解	2年生は、大田区、全国の数値を上回り、3年生は前年度より数値が下回っている。ただし、2、3年生ともに語形・語法の知識理解の問題で、目標値を下回るものが見られた。前の学年で学習した文法についてはちゃんと理解しないまま学習が進んでしまっていると考えられる。1年間の最後に、学習した内容をきちんとふりかえり、次年度の学習につなげていく総括的な復習の時間を設定することが必要であると考えられる。

(3)英語科の学習効果測定等における課題

2年生は、大田区、及び全国の平均正答率の数値をすべての項目で上回っていた。昨年度の検証結果に基づいて具体的に授業改善した効果が上がっていると考えられる。逆に3年生は数値を下回るものが多く、課題が多くみられた。理由としては、前年度までの学習内容が定着しないまま、現在の学年の学習に進んでいる結果、わからない部分が増えてしまっている可能性が考えられる。課題としては、スモールステップでの授業展開や基本的な内容の反復学習、具体的な家庭学習の方法のアドバイスと実践であると考えられる。とにかく、基本的な学習内容の定着を目指したい。

(4)英語科の具体的授業改善策

観点	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	生徒のレベルに応じ、英語による発問を工夫することで、多くの生徒に発言を促し、授業の活性化を図る。また、生徒が自主的に家庭学習における音読練習に打ち込めるよう、授業内の発音練習を徹底して行う。「関心・意欲・態度」の観点は、小中一貫教育で重点化していることあるので、小学校英語活動との連携を深め、発達段階に応じた英語学習への意識づけを行う。各月に設定しているALTの授業は、日常の英語授業と雰囲気を変え、「英語学習は楽しい」と生徒に実感させ、生徒が楽しみながら取り組める内容を工夫する。ALTと共に実際に英語を使う必然性が生じる場면을授業内に設定し、生徒にとって「覚なければいけない」という義務感よりも、発話量を多くすることで、自然に「〇〇の場面で、コミュニケーションができるようになる」という授業作りを目指す。
表現の能力	ペアワーク・グループワークなどを通して対話的な学び合い学習を推進する。十分な発話量を保証し、生徒が互いに英語によるコミュニケーションをすることで英語力を高め合えるような時間を授業内で大事にしていく。特にALTの授業を最大限活用し、英語による英語の授業を行い、聞く⇒話す⇒(読む)⇒(書く)という手順で表現力の向上を目指す。本校生徒が苦手とする「単語の書き取り」について、毎時間家庭学習課題を出し、個々の生徒の理解度や目標に対する到達度を確認しつつ、スモールステップで授業を進めていく。また、英作文の指導に関しては、少人数授業の特性を活かして、授業中の生徒の活動に対する机間指導を徹底するなどして改善を心掛ける。自己関連性を重視した表現活動の展開を心掛ける(自分に関わる内容を英語で表現させる内容の工夫をする)。さらに、授業の中でchatを取り入れ、相手と会話を続ける力を養うことで、あるテーマについて複数の文を作れる(書ける)ように指導していく。
理解の能力	日々の授業でTF問題、Q&A問題などの英問・英答練習を数多く行うことで、生徒に一定のまとまった内容のある英語の文章を、日本語の解説やサポートを介さず、英語のまま理解させる習慣をつけさせる。さらに三年生は春の入試を目標にして、限られた時間内で都立高校入試の読解問題が解けるように演習させる。また、全学年教科書のReviewの問題や、副教材等の問題を使うなどして、生徒の初見の英文読解の問題に取り組むことへの抵抗感を減らし、長文の読み取り力を強化していく。
知識・理解	語形・語法、語彙の書き取り力が不足しているので、宿題として家庭学習の課題を提示する。定期的にスペリングコンテストや文法事項の小テストを実施するなど、生徒が日常的に英語の家庭学習に取り組む動機付けを行う。教科書の単元が終了した時点で、その単元の文法事項の復習を必ず行う。また、授業内では発音練習の機会をたくさん設け、生徒が自信を持って教科書の英文を正しく英語らしい発音で音読、または暗唱できるように工夫していく。

内容項目	具体的な授業改善策
聞くこと	毎時間の活動にリスニング活動を取り入れ、生徒の耳を英語に慣らしていく。また、音読練習をたくさん行い、英語の語順が自然と身に付くようにする。ALTの授業を最大限活用し、nativeの発音に耳慣れし、発話する機会を増やしていく。さらにchatの活動を取り入れ、会話を続ける力を養うことで聞き取り及び適切な応答ができるように指導していく。
読むこと	教科書の内容理解を中心として、パワーポイントやデジタル教科書による教員のオーラルイントロダクションによって文の大意を生徒に理解させ、初出の英文に取り組むことへの抵抗をなくす工夫を行う。また語形・語法・語彙の知識・理解において、単元ごとに小テストを行うことで、生徒に家庭学習を促し、基礎力を身に付けさせていく。教科書の読み取りだけでなく、副教材や他の長文を利用して読むことを習慣づけ、長文に慣れさせていく。
書くこと	帯活動として英問・英答練習を充実させ、基本文の定着に力を入れる。また、家庭学習として発音しながら英文を書く練習をするよう生徒に促す。学期ごとに自己表現の発表活動を取り入れ、話すことができた内容について作品を作り、3年間で自己関連性を重視したテーマについて正しい英文で書けることを増やしていく。また、語順を理解するためのワークシートなどを作成し、定期的に小テストを行い定着を図っていく。

学年	具体的な授業改善策
1学年	小学校で身に付けてきた英語活動に関する興味を大切に、小中一貫教育の重点化観点である関心・意欲を中学校でも高めていけるように特に入門期から、今年度一年間の授業内容の工夫をする。ALTとの授業を最大限活用して、実際の英会話や英語表現を使っでの活動の場면을授業中に取り入れるように努める。小学校の英語活動から、中学校における教科としての英語学習へのつなぎをスムーズに進める。活気に満ちて、生徒が楽しいと思いつつ、小学校英語から少しずつ発展させた授業を実践する。関心・意欲を高めるために「英語を使う」場面を多く取り入れる。毎授業chatの活動を取り入れ、相手と会話を続ける力を養いつつ、「自分の英語が通じた」という成功体験をさせることで関心・意欲を高めていく。
2学年	リスニングにおいて英文の要点をつかんだり、対話の内容に対する応答の力が弱いので、毎時間の帯活動において聞く、話すといったアクティビティを継続指導する。また、ALTとの授業では、なるべく英語の授業を英語で進めるようにして、聞く力、話す力を英語を使う自然な場面の中でのばしていく。2学期より50語～100語程度のまとまった内容の英文を読む活動も取り入れ、将来的にはある程度まとまった英語の長文を、一定の時間内に自力で読み取る力と、与えられたテーマに対して正しい英文で書くことへの自信をつけていきたい。英作文の指導は、ALTの力も借りながら、少人数授業の特性を生かして個々の生徒にきめ細かい指導を行っていく。
3学年	リスニング力はかなりついてきているので今まで通り、毎時間の英語の歌やリスニング活動といった帯活動を継続したい。ALTの授業では、各学年共通に、なるべく英語の授業を英語で進めるようにして、聞く力、話す力を英語を使う自然な場面の中でのばしていく。少人数授業において、ペアワーク、発表活動などを通して、対話的な学び、生徒同士の相互教育力を活かして、英語の発話に対する抵抗感も減らしていきたい。100語程度の英文読み取り活動を毎時間行い、生徒の所見英語の読み取りに対する自信に繋がられるよう指導していく。2学期以降は都立高校の入試問題に慣れていけるように、副教材問題集の初見問題や様々な英文読み物教材を取り上げ、制限時間内で問題演習させ、長文を読むことへの抵抗をなくしていく。